

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukush.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2021.7.15 第372号

つくしだより



令和3年7月号

2021年度

東京つくし会評議員会報告

理事 大山竹彦

6月17日10時～12時、調布市文化会館(たづくり)8階映像シアターにおいて評議員会が行われました。会長より、コロナ禍の中で昨年は集まる事が出来ませんでした。2年ぶりに評議員会を持つ事が出来ました。当会館は10月の全国大会の全体会場でも使います。全体会は(くすのきホール)で行います。今回は来賓の招待も控えました。全国大会は第1日目の全体会のみオンラインで開催します。2日目の分科会は、午前、午後に分けて赤羽会館にて開催します。参加者には、全体会・分科会の報告DVDを配付する等の方針を説明されました。

続いて、みんなねっと大会記念歌「つくしんぼ」の作成経緯が会長より紹介され、歌を評議員全員で聴きました。

定足数59名中44名の出席者と14名の委任状計58名の参加をもって、評議員会は成立いたしました。

議長には、調布かささぎ会の江頭さんが選任されました。

第一号議案2020年度事業・活

動報告が眞壁会長からありました。

新型コロナウイルスにより、活動が制限される中でも、都の委託事業として実施している年2回の講演会は、延期して開催、3月には、「家族研修会」も開催しました。10月には「会長会議」を開催し、コロナ禍での悩みや活動の工夫が交流できました。東京都への要望や各政党ヒヤリングは、例年多くの家族会から参加していたのですが、今年度は三密を避ける為、理事だけに出席者を絞って実施しました。財政問題には手をつけられなかったこと等が報告されました。

第二号議案2020年度決算報告を安藤理事が、監査報告を監事の苛原氏が報告しました。第一号議案・第二号議案を一括審議し、拍手をもって承認されました。

第三号議案2021年度事業・活動計画の説明が植松副会長からありました。第三号議案・第四号議案も一括審議されました。活発な質問やご意見がありました。一部を紹介しますが、「障害者雇用率の前進はうれしいが、ジョブコーチのマッチングの問題がうまくいかないことを聞いている」「家賃年間90万は大きな負

担。都の施設を貸してもらえるようにしてほしい」「精神障害になったのは子育てのせいではないと言いながら、親に様々な責任を押しつけている。発病間もない混乱している家族への指導や財政的な支援を要望して欲しい」等々。

第六号議案会則変更の件は、今まで23区は、東西2つのブロックに分かれていましたが、東西ブロックの会員数も理事数も減少している現状を踏まえ、2つを統合して「23区ブロック」とするとう提案がなされ、承認されました。

最後に第五号議案2021年度つくし会役員名簿が提案され承認されました。今年度もどうぞよろしくお願ひします。

2021年度役員体制

会長・・・眞壁博美
副会長・・・植松和光、本田道子
 ・ 轡田英夫、中住孝典
会計・・・安藤万寿代
理事・・・川崎洋子、松澤 勝
 ・ 鬼頭博子、大山竹彦
 ・ 前山栄江、江頭由香
理事補佐・池田 正、小澤輝江
監事・・・苛原真也、鳥山克宏

講演会報告

精神障がい者の地域生活を支える訪問看護

～訪問看護の現場から実践を語る～

都運副会長 齋田 英夫

日時 令和3年6月17日14時～16時半

場所 調布文化会館 8階 映像シアター

講師 訪問看護ステーション「KAZOC」

代表 作業療法士 渡邊 乾(つよし)氏

参加人数52名

2007年に精神科病院に就職し、慢性期女子閉鎖病棟の担当になりました。上司に「命の次に大事なものは鍵だ」と言われて驚き、さらに「平均在院日数30年に向けての準備をするように」と指示され、退院させる気が無い事に気づきました。このような病院の体制に反発して、退職して2013年に、退院した当事者を地域で支えるために精神科訪問看護ステーションKAZOCを設立しました。

日本の精神医療の現状を示す7つの数字があります。(1)19%…世界の中の日本の病床率の割合(2)32万…日本の病床数(3)280日…平均在院日数、先進国は平均18日(4)20万人…長期入院者数(5)5万人…20万人のうちの一年間の長期入院退院者数と新たな入院者数。ベッドコントロールされている。(6)2万人は5万人の中の死亡退院者数(7)97…397%は医療に向けた予算福祉予算は3%と少ない。

精神科看護で解消しなければならぬ3つの課題があります①入院中心から地域生活支援へ②長期入院者の退院促進・地域移行③実行可能な権利擁護制度の確立です。これらの課題を踏まえて、精神科看護の目的は、生活の主体である精神障害をもつ人自身と「その人がその人らしく生きる」＝「QOL(生活の質)を高める」ことを共に考え、安心して地域で生活できるよう自己決定を支援し、サポートすることです。とりわけ、個人の尊厳と権利擁護を重視し、自律性の回復とその人らしい生活を送ることができるようになる事が肝要です。精神科看護における「自律」とは、自分の人生を自分の意志で生きることができるようになるという意味で、国の考える「自立」とは大きく異なります。



私は、以上のことから以下のコンセプトを柱に精神科訪問看護ステーションを立ち上げました。

それは管理しない、変容を求めないということを柱にしています。地域社会の中で管理をしないで支援する方法を確立する必要があります。入院して投薬をして治療するのは変容を求め

めるからです。私は無理に変容を求めないという方法、つまり入院しない、薬を使わないという方法を模索しますが、非常に難しい問題です。この解決の手法として次の3つにたどり着きました。一つは、ハウジングファーストというアメリカでの取組です。これは、ホームレスの精神障がい者に住居を提供することです。これにより居住を維持していく率は80～85%です。つまり地域で居住し続けられるのです。二つ目は、フィンランドで実践されているオープンダイアログです。数人で対話を重ねることで薬を使わなくても治療できるという方法で、極めて良好な成果を出しています。最後は、浦河べてるの家の取組です。当事者が自分の体験を皆の前で話したりしています。ホテルの理念は、「3度の飯よりミーティング」「弱さを絆に」とか会話と自己をさらけ出す事を理念としています。

このように、入院もせず、薬も使わないで、管理をせず、変容をもとめなくとも地域の中で生活ができるようになるのです。

今回の講演は、単なる訪問看護の一般的な話ではなく、当事者が本人が本人のまま生きていくことができるようにすることが彼の訪問看護の手法であるという極めて斬新な内容の講演でした。

2021年度みんなねっと
第1回定期総会に参加して

都連副会長 植松 和光

公益社団法人全国精神保健福祉連合会（通称：みんなねっと）が6月16日（水）午後1時からオンラインで開催されました。最初に主催者を代表して岡田理事長が挨拶、その後来賓のメッセージが紹介されました。

当日は、北海道から沖縄までの正会員34名が出席（委任状10名）で総会が成立していることを確認後、議長に私、植松が選出されました。議題は第一号議題事業活動報告、第二号議題決算報告が小幡事務局長から報告。第三号議題活動計画、第四号議題予算案、第五号議題諸規定変更案が岡田理事長及び小幡事務局長から提案がありました。紙面の都合上、2021年度活動の重点項目についてのみ報告します。

- 1 WEBの積極的な活用
- 2 法人の持続運営に改善計画の策定及び実施（賛助会員拡大推進）
- 3 精神保健医療福祉諸政策の改革を見据えた「三つの提言」の発表
- 4 多様な立場の家族との連携活動の充実（ネットコミュニティ等の連携・強化）
- 5 各ブロック活動とみんなねっとの取組の共有・連携強化（理事会活性化）
- 6 医療費助成の推進と実績の共有から要求

推進へ

7 交通費運賃割引制度実現への働きかけを掲げ家族当事者の思いを実現していくと説明しました。

第四号議題は予算案ですが、各都道府県連と同じように会員の拡大が急務となっており、提案がありました。

採決の結果すべての議案全会一致で採択されました。報告事項も承認されました。

以上が報告ですが、私が感じたことは、みんなねっとの力をもっと大きくするために財政基盤の充実を痛切に思いました。



「公益信託

池田輝子記念精神障害者福祉基金」

都連理事 安藤 万寿代

「公益信託 池田輝子記念精神障害者福祉基金」は池田輝子様より精神障害者及び支援者に有効に役立てたいとの思いから、平成3年9月に設立された福祉基金です。助成の対象は東京都内に設置されている障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業、その他に関連する自主事業を行う施設等（除く公立施設）の事業で、施設における作業や教育等の処遇向上に資する諸設備・物件の購入、生活環境改善のための施設改修等に助成し

ます。尚、受諾者は三井住友信託銀行です。

運営委員は6名で、オプザーバーに東京都福祉保健局障害者施策推進部精神保健医療課が関与しています。家族会では、東京つくし会（安藤）が運営委員として出席しています。5月28日（金）午前10時から2021年度第一回運営委員会がZOOMによるオンライン会議が開催され、議事録署名人に安藤がなりました。2020年度事業報告・収支決算書報告財産目録報告、2021年度助成金給付対象の選考が行われました。今年度は13件の申し込みがあり、9件が採用されました。不採用のものの中には締切期限を過ぎての申し込みがありました。

2022年度も公益信託池田輝子記念精神障害者福祉基金助成金給付の募集をします。募集期間2022年2月1日（火）～2022年3月31日（木）締切厳守・当日の消印有効です。

応募方法は所定の申し込み用紙により、三井住友信託銀行 個人資産受託事業部 公益信託グループ 池田輝子記念精神障害者福祉基金 申請口 電話03・5232・8910

過去5年以内に助成を受けた施設には、原則として助成を致しません。

後になりましたが、昨年の4月10日に池田輝子様が永眠されました事、ご報告いたします。謹んでお悔やみ申し上げます。

風のおくりもの

都連副会長 本田 道子

さわやかな風が ほほをやさしくなでてゆく

時は今から15年前。ところは都内の病院の中庭。私は車イスに座りここちよい風をうけていた。

「こりやひでえや……」

患者である私がすぐ目の前にいるにも関わらず救急搬送された病院の医師は思わずそうつぶやいてしまった。

私はベンツにはねられていたのだ。「歩くことは不可能、これからは車イスで」宣言されてしまった。

けれど私自身では全くそうは思えなかった。元気に歩いている姿しか浮かんでこなかったのだ。

リハビリ中にいわれたことば

「負けすぎらいですよね」

思ってもいなかった。すぐにネをあげてしまふ自分には超甘い人間だと思っていたのだから。負けすぎらいはすぐに証明された。出された課題はその日のうちに必ずクリアーした。できない、というのはくやしかった。「奇跡は起こる」以来信じるようになった。あなたにも。さわやかな風をおくりまします。

★講演会のお知らせ★

○「その人らしさを大切にしたい訪問看護について考える」

8月14日(土) 午後1時半～4時

講師 株式会社円グループ訪問看護部門

原 英樹氏

会場 小平市福祉会館 定員50名程度

申込不要

主催 小平市けやきの会 ☎042-343-4559

○「精神障害者の回復と家族の役割」

9月11日(土) 午後1時半～4時

講師 大泉病院 精神科医

山澤 涼子氏

会場 小平市福祉会館 定員50名程度

申込不要

主催 小平市けやきの会 ☎042-343-4559

○「コロナ禍に学ぶ当事者及び家族のあり方」

9月11日(土) 午後2時～4時半

講師 なでしこメンタルクリニック院長

(外来、アウトリーチ支援)

東洋大学名誉教授 白石 弘己氏

会場 小金井市市民会館 萌え木ホール

申込不要 先着48名

主催 小金井市あじさい会 ☎042-388-3729

編集後記

左手の親指の傷

コロナ禍の中、出かける回数も減り、悶々としている中で、フツと雑草の刈入を忘れていたことに気づき、久し振りに、刃渡り30cmの電動生垣バリカンを取り出し、動かしてみました。シャーシャーと動いてくれます。バリカンを右手に持ち、竹藪の中へ、左手で青竹を数本握り、バリカンで根元をジャージャーと切断。

突然右手のバリカンが右奥のツゲの木と笹竹に引っ掛かり取れません。やっとな無理やりひっぱりました。と、右手のバリカンが、左親指の爪ジャヤー、アツと言うまでした。親指の先から、赤い血がドクドク……。エツと見ていました。ハツとして、バリカンを離し、親指の血を押しさえ、それガーゼ、それ包帯グルグル巻きで血を止めました。

次の日病院へ。「破傷風」のワクチンも打たれました。「コロナワクチン接種はダメです」と言われました。コロナワクチン延期です。今、指の回復素晴らしく「元気出せ」と、指に励まされています。

都連理事 大山 竹彦

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。